

博報財団 第12回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	OBERWINKLER Michaela Marianne (オーバーヴィンクラー ミハエラ マリアンネ)
在住国名	ドイツ
所属・役職	チュービンゲン大学, アジア地域文化研究所, 日本学科 研究協力者(注:教授になる前のポストで、准教授, 講師, 助教などすべてに当たる)
招聘回(招聘研究期間)	第12回(2017年9月1日～2018年8月31日)
受入機関	立命館大学
招聘研究テーマ	文字による新たなコミュニケーション — SNS 言語行動の特性分析—
研究目的	SNS 言語行動の特性を探ること
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>現在日本で最も使用されているSNSはLINEであること、ドイツではまだほとんど知られていないスタンプがLINEで頻繁に使われることから、LINEスタンプに研究を集中することにしました。LINEトークにおいて、スタンプと顔文字・絵文字との違いを探るために、オンラインアンケートを実施し、最終的に208人から回答を得ることができました。</p> <p>そして、スタンプの実際の使用実態を知るために、分析に適したLINEデータを二つの異なった方法で収集しました。第1のデータ収集はスタンプを使ったLINEの実例をスクリーンショットとして提供してもらうという方法で行い、140人から505枚のスクリーンショットを収集できました。第2のデータ収集はロールプレーを用意し、それに従って起こしてもらったLINEトークをスクリーンショットとして保存するという方法でした。ロールプレーは「与えられた特定の条件のなかで誘いを断る」という短いもので、決まった言語行為(スピーチアクト)でスタンプはどのように使われるかを広範に分析できることが期待されたため、この方法を採用しました。</p> <p>ロールプレーの参加人数は合計298人で、2人1組でトークを行ったため、計149件のロールプレーのデータが収集できました。参加者のうち関東の人は94人で、関西の人は204人でした。</p> <p>データ収集が終わった後に、提供されたスクリーンショットを一枚ずつ見ながら統計分析を行いました。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>a) オンラインアンケート調査の結果として、顔文字と絵文字との比較でスタンプの様々な特徴がわかりました。例えばスタンプを使う理由は、見た目が可愛いということ、送ったり受け取ったりするのが楽しいこと、文書を書くより楽に送信できることなどです。</p> <p>b) スクリーンショットの分析からは、スタンプの構造的な特徴がわかりました。例えば、スタンプのイラストとして主に一匹の動物が描かれていること、その中で、一番よく使われている動物はウサギであることなどです。そして、統計的な分析によって、有意義な男女差も確認することができました。また、スタンプの75%以上は文字付きで、文字の種類は67.4%が平仮名で書かれていました。スタンプの一番よく使われている機能は賛成・承知でしたが、スタンプ機能の統計分析によって、男女差が顕著に認められました。スタンプが批判・反対の役割を果たしているのは男性同士のLINEトークで最も多く、女性同士のLINEトークで最も少なくなっていました。そして、スタンプとメッセージの関わりを見ると、スタンプがメッセージの代替、強調、修飾とメッセージの反対の意味を表す等の機能を持っていることがわかりました。</p> <p>c) ロールプレーのデータ収集はこれからの異文化比較研究のためのベースと位置付けることができます。ロールプレーでは、決まった会話の文脈でスタンプがどのように使われるかということが明らかになってきているので、異文化との比較に適しています。ロールプレーの簡単な分析によって、既にそのことが確認できますが、今後の研究をより具体的に異文</p>	

化との比較まで広げていくためには、より詳細なロールプレイの分析と検討が必要です。

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

・“Emoticons in Social Media: The Case of Japanese Facebook Users”, in: Elena Giannoulis and Lukas R.A. Wilde (ed.): Emoticons, Kaomoji and Emoji and The Transformation of Communication in the Digital Age, London/New York: Routledge (2019年春に掲載予定)

・“New Ways of Visualizing Language in Japan: The Japanese Use of Virtual Stickers in LINE”

(The Journal Discourse Context & Mediaに提出済で現在審査中)

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・New Ways of Visualizing Language in Japan: the case of Japanese virtual stickers (sutampu); International Conference: visualizing (in) the new media、2017年11月8日14:30-15:00 (スイス時間, skypeを通しての出席), University of Neuchâtel, Switzerland [LINEスタンプの利用実態について]

・SNS言動行動の特性分析: 顔文字とスタンプを中心に; 立命館大学、研究発表、11月10日13:30-14:30、敬学館KG211, [Facebookの顔文字とLINEスタンプの比較および利用実態について]

・LINEスタンプのコミュニケーション上の機能; 春の応用言語学講演会、2018年4月27日16:20-17:50, 講演、立命館大学、敬学館KG006, [LINEスタンプのコミュニケーション上の機能について]

・顔文字・絵文字・スタンプ: 言語を視覚化する日本のモバイルコミュニケーション; 東京女子大学学会 教育学・博物館学部会主催講演会、2018年5月14日10:55-12:25: 講演, 東京女子大学、9201教室, [LINE上の顔文字・絵文字・スタンプの特徴について]

・Japanese digital pictograms: kaomoji, emoji, virtual stickers、2018年5月26日15:00-16:30発表, 同志社大学, TCJS 図書室, [LINEスタンプの利用実態について]

・LINEスタンプのコミュニケーション上の機能; 春の応用言語学講演会、2018年6月26日14:40-16:10, 講演、立命館大学、学而館KG06, [LINEスタンプとWhatsAppの絵文字の比較について]

○その他の活動

・秋と春に立命館大学、同志社大学、京都外国語大学をそれぞれ複数回訪問して、学生に研究プロジェクトの内容を説明し、データ収集を行った他、LINE 上のコミュニケーションについてディスカッションを行いました。

・北出先生の授業に参加しました。

4. 今後の活動予定

今回、日本で収集・分析してきた LINE でのコミュニケーションの特徴を、異文化と比較して、その違いについて研究したいと思います。具体的には、中国の WeChat や韓国の KakaoTalk と比較することができたら、とても有意義な研究になると期待しています。特にロールプレイの研究方法は、異文化比較に適していると思います。将来的には言語を超えた広範囲の研究ができるよう、中国人や韓国人の言語学者とネットワーキングし、共同研究プロジェクトを立ち上げたいと考えています。